

## ナラティブ・メディア研究会 第 25 回

# 社会科学からみたメタファー

2019 年 8 月 6 日 (火) 15:30~18:00

情報科学研究科 (青葉山 G01) 8 階小講義室

オープニング発表 「社会の情報化と記憶のメタファー」

齋藤 玲 (情報科学研究科学術研究員)

本発表では、記憶、メタファー、社会の情報化をキーワードとして、社会の情報化と記憶のメタファーの関係について議論する。はじめに、心理学において記憶ないしは学習に関する研究がどのように行われてきたのかについて説明する。そして、ここでは主に記憶に関するいくつかの理論や枠組みについて紹介する。その後、記憶研究のなかでも記憶のメタファー研究に焦点をあて(例えば、楠見、1992)、人々が記憶をどのようなものとして捉えているのかについて説明する。最後に、記憶のメタファー研究の今後について、社会の情報化(例えば 1990 年代からはじまる情報機器の利用頻度の増加等)という観点から、展望する。

講演「コーチング・セッションにおけるナラティブの協働構築  
——転回点としてのメタファーに注目して——」

船山 和泉 (サラ・ローレンス・カレッジ)

自己啓発やキャリア開発・組織開発などの有効な手段として認識されるようになった「コーチング」は、ここ 10 年ほどで急速な成長を遂げ、個人の選択としてだけでなくビジネスや行政、NPO など様々な分野で採用されている。本研究では、コーチングを「コーチとクライアントの二者間の相互作用におけるナラティブの協働構築の実践」として捉え、実際のコーチング・セッションを録音し書き起こしたテキストの詳細な分析を行う。特に、クライアントの「既存のナラティブ」を構成する要素が二者間の相互作用を通じて再構成されて「新たなナラティブ」が立ち現れる過程に注目し、その過程においてメタファー(の相互作用を通じた進化)が転回点となり重要な役割を果たすことを明らかにする。また、クライアントがナラティブの語り手としてだけでなく登場人物としてナラティブに携わり、メタファーをイメージの中で体感・体験する試みが、その転回点を作り出す上で重要となることを示す。

どなたでも興味のある方の  
来聴を歓迎します

(事前申し込み不要、  
他分野・他研究科学生歓迎)

照会先:

情報科学研究科 森田 直子  
morita@media.is.tohoku.ac.jp

文学研究科 森本 浩一

アンフォルメ交流会 齋藤 玲

船山 和泉氏 プロフィール



Ohio University にて M.A.、The University of Texas at Austin にて Ph.D. 取得。熊本大学文学部准教授を経て 2012 年よりアメリカに拠点を移す。専門は異文化間コミュニケーション。ナラティブ分析、ディスコース分析などの質的研究方法を用いた研究にも従事。2014 年より Sarah Lawrence College 他で日本語、異文化コミュニケーション論、基礎コミュニケーション論を教える。国際コーチ連盟の認定プログラムを提供する CTI (Coaches Training Institute)よりプロ・コーチ (Certified Professional Co-Active Coach)の資格を取得、2014 年よりコーチング実践にも携わる。